

第32期目録委員会記録 No.6

第6回委員会

日時：2009年10月24日（土）14～17時

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：原井委員長、東、木下、酒見、鴫田、平田、古川、渡邊

<事務局>磯部

[配付資料]

1. 新公益法人制度への移行について（2ページ-A4、原井委員長）
2. ISBD予備統合版修正草案（2009.8.4版）について（5ページ-A4、渡邊委員）
3. 目録の利用と作成に関する調査（6ページ-A4、木下委員）
4. RDA全体草案の個人的評価（2ページ-A4、古川委員）
5. NCR改訂の方向性について（3ページ-A4、原井委員長）
6. NCR改訂スケジュールと関連事項(案)（1ページ-A4、原井委員長）
7. 第32期目録委員会記録 No.4（3ページ-A4、事務局）
8. 第32期目録委員会記録 No.5（案）（4ページ-A4、事務局）

[報告事項ほか]

1. 議事録の確認

第5回記録案（資料8）を確認した。

2. 原井委員長より、IFLAの目録分科会の連絡委員が稲濱氏から東委員に正式に交代したことが報告された。今後IFLA側から、なんらかの連絡がある場合には、東委員から転送されることになる。

[検討事項]

1. 新公益法人制度への移行について

原井委員長から、日本図書館協会の新公益法人への移行についての状況と、それに関連する目録委員会への調査依頼に関する報告があった（資料1）。

現在の公益法人は2013年11月30日までに、公益社団法人、一般社団法人、その他のうちいずれかに移行しなければならない。日本図書館協会としては税制面の優遇措置などがある公益社団法人への移行を視野に入れており、その要件のチェックのため、各委員会に対して調査の依頼があった。調査の提出期限は11月2日で、これについて原井委員長と事務局の方でまとめて回答する。

2. ISBD予備統合版修正草案（2009.8.4版）について

渡邊委員より、ISBD予備統合版修正草案の重要と思われる修正点(資料2)について報告があり、意見を交換した。

主な修正点は、以下の通り。

- ・ 体現形単位の記述作成の明示
- ・ 事例の差し替え多数。
- ・ 全体に古書（ Older monographic resources ）特有の指定が多く削除されている。
- ・ エリア0はまだ組み込まれていない。

委員から指摘のあった誤植の指摘について、日本語の誤植については既にJaeson Lee氏により修正コメントが出ているものが多いが、中国語の誤植については、気づいた形跡がないので確認のうえ、修正されるように指摘する。

この案に関して、確認・修正の期限は具体的にされていないが、今月中にはまとめて提出する予定である。

3. 目録に関する調査について

木下委員から、前回の委員会での意見を反映して修正した調査シート案（資料3）について説明があった。案に対する意見は下記の通り。

「提供」の項目

- ・ 問2に答えるのは、問1で1と答えた館だけでなく、2と答えた館も含めたほうが良い。
- ・ 2-3の入力方法、2-7の検索方式、2-9の検索補助機能という設問はまとめる。
- ・ 2-5と2-6の設問の前に、2-8の設問を移す。
- ・ 問1の「web版OPAC」と2-1の「web OPAC」の記述をどちらかに揃える。
- ・ 問1の1、2では「OPAC」、問2では「利用者用オンライン検索目録(OPAC)」となっており、略称が先に出ているので修正する。
- ・ 2-3のタッチパネルは入力方法ではないのではないか。
- ・ 2-5の7でリンク情報（URL）という書き方は分かりにくいので、URLによるリンク情報とする。
- ・ 2-6の項目が多いので、次世代OPAC的な項目は減らす。

「作成」の項目

- ・ 目録データベースを作成していない図書館に対しての設問が不足している。形態（カード・冊子）、種類（著者・分類など）、排列規則、目録規則、旧来型の目録を作っている理由について聞く必要がある。
- ・ 目録データベースというと、カード目録は含まれない印象を受けるので、カード目録のみを作成している館についても考慮する。
- ・ 外部委託と、購入する目録データとの関係が、設問からだけでは分かりにくい。具体的な事例を加える必要がある。
- ・ データに何を使っているのかということと、どのくらい自力で作成しているのかとい

うことが設問の中に混在しているので、整理する。

- ・ 問10は分類委員会で別途調査される項目なので、削除する。

その他

- ・ この調査は、現状の把握を目的としており、各項目については現状に即して回答してもらうが、近い将来の予定などを聞くために、別途、自由記述の項目を追加する。
- ・ 調査の名前を「目録の利用と作成に関する調査」から「目録の提供と作成に関する調査」に変更する。

調査シート案も大分まとまってきたので、この先は「提供」と「作成」の部分を分担して検討することになった。「提供」部分は引き続き木下委員、「作成」部分については酒見委員が担当する。11月に再度検討した後、調査票を公共図書館の人にも確認してもらう。依頼する人については、過去の目録委員会の委員などを軸に検討する。実際に、調査を行うにあたり、12月に提出予定の目録委員会の来年度の事業計画に含めると共に、事務局側でも確認をしてもらっておく。

4. RDA全体草案について

古川委員より、資料4に基づいて、RDAの全体草案の評価すべき点、問題点についての意見が報告され、意見を交換した。

- ・ 評価すべき点の7番目として、「用語のリスト化」を追加。
- ・ Encodingの部分が切り離されていることで、どこまで現在と変わったものになるのか実効性が見えづらい。
- ・ RDAを実際に運用するには、MARC21を変える必要があるように思われるが、背後にあるデータを考えると単純な話ではない。
- ・ 今までのデータを考えずに新たにデータを作ろうとした場合にはRDAを使用することは可能だが、これまでのデータとの整合性を取るには、MARC側を構成しなおさないと適応は難しい。RDAはそういう意味で、目録規則の一步手前のものという印象を受ける。

5. NCR改訂の方向性

検討事項の4のRDAの評価を受け、原井委員長からNCR改訂の方向性の目的と論点について、資料5に基づいて説明があり、意見を交換した。

改訂の目的について

- ・ 次回、更に検討を進めるため、各委員は意見をまとめておく。
- ・ 序章で、改訂の目的についてはきちんと説明する必要あり。
- ・ 前版（1987年版）の評価をする必要あり。

論点について

- ・用語の改訂と、付録にマッピングを含めることを追加する必要あり。
- ・論点の(7)表示順序、配列については、目録規則に含めるか検討が必要。作成と提供を完全に切り離すかどうか。
- ・国際目録原則に則っていることを明示する必要があるのではないか。
- ・標目に関して、FRADも検討する必要があるかもしれない。
- ・主題に関する部分を目録規則に含めるかどうか。件名委員会の方で検討されているか？
- ・MARCフォーマットを一緒に考えるかどうか。そこはNDLやNIIにまかせるか。
- ・規則を改訂しても、誰も使ってくれないというのでは意味がない。少なくともNDL、その他、NII、TRC、日販あたりで使われる必要がある。
- ・RDAの日本語版を作っても仕方がない。RDAとの連携はとっておく必要があるが、構成などは同じにする必要はない。
- ・実務担当者が慣れるのに時間がかかるような改訂は行わない。
- ・検討事項の4であげられた、RDAの評価すべき点をエッセンスとして、それが発揮されるような構成であれば良い。

6. NCRの改訂スケジュール

原井委員長より、NCRの改訂スケジュール案(資料6)が示され、意見を交換した。

- ・来年度の図書館大会(2010年9月、奈良)で、分科会を開く。
- ・分科会は半日とする。
- ・分科会の内容は、a案(世界の動向の説明とNCRの改訂方針案の説明)とする。
- ・なぜNCRを改訂しなければならないかを理解してもらうことを目的とする。海外が変わるから、仕方なくこちらも改訂するのではないことを説明したい。
- ・委員はなるべく参加する。
- ・3月か4月の時点で、分科会の内容を確定し、依頼等が速やかに行えるようにするためには、NCRの改訂方針案がそれまでに固まっている必要がある。
- ・NCRの改訂方針案の公表は、分科会の前には行われている必要がある。
- ・本格的な議論をするのであれば、図書館大会とは別に独自に説明会を開く。

次回以降の委員会の予定

11月28日(土)

12月26日(土)

以上